



後輩が黒板に描いた桜の前で
記念撮影する卒業生ら
＝米沢市・米沢東高

コロナ禍の経験 力に 県内高校卒業式ピーク

県内の多くの高校で1日、卒業式が行われ、高校生活の大半を新型コロナウイルス禍の中で過ごした卒業生が、晴れやかに門出の日を迎えた。

米沢市の米沢東高（小林由美子校長）では127人が式典に臨んだ。小林校長が代表4人に卒業証書を手渡した後、五十嵐彩さん（18）が「コロナは高校生活に大きな影響を与えたが、仲間と励まし合い、今できること、すべきことをしようと努めてきた。苦しい時は助けを求め、困っている人には手を差し伸べ、新たな道を歩んでいきたい」と決意を述べた。

保護者の出席は1家庭1人、式典のみに制限された。教室では一人一人に担任から卒業証書が手渡され、保護者に見てもらえるよう、スマートフォンで撮影した。

県によると、県内高校の卒業式はこの日がピークで、県立26校、私立5校で行われた。

（大坪千絵、玉虫秀明）

動画は「1」から
電子版はダブルタップ